

○議長（森 弘秋君） これより、村政一般に対する質問並びに提出案件に対する質疑を行います。

通告順に発言を許します。

4 番 杉田雅史君。

○4 番（杉田雅史君） 4 番杉田でございます。今回は、さきに通告させていただいたとおり、金森村長の次期の村長選挙に向けての決意及び豊富、また子育て支援賃貸住宅「リラフォートふなはし」の現在の状況及び問題点の2点について、お伺いをしたいと思います。

ご存じのとおり、金森村長の任期は来年、令和3年1月までとなっておりますが、最近一部報道機関からの取材等において、次期の村長選挙の話題が県知事選挙の話題とも絡み合いながら、ことしに入って多く聞かれることとなっています。そこで、いつもですと6月議会でご質問をさせていただいているところですが、ことしは前倒ししてお聞きをしたいと思います。

金森村長は、前回、平成28年6月議会において、次期村長選挙の出馬に向けた決意表明をされました。その後3年余りが経過し、その間、子育て共助のまちづくり事業を推進され、県内の大学や造園業者など4団体と、公共空間の整備・利用による子育てコミュニティづくりの実践に向けて、連携協定に関する覚書を締結し、地方創生シンポジウム等も開催をされました。

また、公園関連事業として、舟橋駅前公園も完成され、その後、オレンジパークの増設、供用が開始され、そこにおけるこども公園部長や園むすびプロジェクト、クラウドファンディング等の取り組みが評価され、都市公園等コンクールで最高賞である国土交通大臣表彰を受賞されました。

これらのことが相まって、舟橋村内では、舟橋地内、古海老江地内、竹内地内に民間による宅地造成が行われています。また、ふなはしこども園が開園するとともに、病児・病後児保育も開始され、さらには子育て優良賃貸住宅「リラフォートふなはし」も完成するなど、人口3,000人を突破し、はや1年半が経過しようとしております。

また、周辺自治体や協力業者との間において防災協定等の連携強化を行うなど、安心・安全なまちづくりにも尽力されてこられました。

そのほかでも、農業・土木関係では、舟橋村ハートかぼちゃを先駆けに、農業ブランディングプロジェクトが始動してきており、村産の農作物や加工品のブランド化を目指

そうと、舟橋村の生産者らが舟橋村農業ブランド化プロジェクトを立ち上げられたことや、未舗装であった村道舟橋駅東芦原線の拡幅改良事業、また仏生寺地内に消雪設備の整備、村道稲荷八幡川線道路改良工事等、多種多様な事業を精力的に展開してこられました。

しかし、村長が4年前に話されていた子育て共助のまちづくりに向けた取り組みもまだ道半ばでございますし、来年度に策定されます舟橋村の新たな総合戦略に向けての検討もしなければならないこの時期に、引き続き村政を担っていただきたいと考えているのは私だけではないと思います。

今後とも村政を預かれる立場として、常に住民の目線に立って、村民の意見に耳を傾けながら、新たな政策を実行していただきたいと思います。

このことに期待を込めて、金森村長の現在の決意と抱負をお聞かせ願いたいと思います。

続きまして、最近私のライフワークともなっておりました子育て支援賃貸住宅「リラフォートふなはし」についてであります。

私もこれまでいろいろと伺ってきたところでありますので、以前からの質問と重複する点もございますが、あまり進展が見られないと感じているところですので、再度お伺いをさせていただきます。よろしくお願いします。

昨年8月以降、数回にわたり募集案内説明会や民間の不動産会社への募集委託など、建築完成後も予定外の予算を使う結果となっております。

そこで、現在の入居者数及び申込者数をまず明らかにしていただくとともに、12月以降の、村として行ってきた説明会や募集委託等々による施策の内容やその結果についてご報告いただきたいと思います。

12月議会での村当局のご回答では、時期的に引っ越しが多い春先のシーズンから外れており、3月に向けて入居を柔軟に対応できるようにするとありましたが、その3月になり、申し込みは増えたのでしょうか。

私はかねてから申し上げますとおり、家賃については、一時的な減額制度を設けるものではなく、駐車場代や共益費等を含めた家賃自体の値下げをお願いしているところですが、リラフォートふなはしは、頼り合える安心感を理解し、コンセプトに共感し、そこに価値を感じる人にぜひ入居していただきたい。また、村が進めるまちづくりのポリシーとの整合性に欠けることから、家賃の値下げはできないとの村当局の意見に賛同

される方はいらっしゃいましたでしょうか。

富山市中心部においても、現在の規格で7万円以上の家賃の賃貸マンションは、新築であってもなかなかございません。それはちょっと調べていただければわかることですので、広さの問題もありご辞退される方も多いと聞きますので、富山県の人間として広さに合った価格での家賃設定を再度お願いするものであります。

前回も申し上げましたが、舟橋、古海老江、竹内地内の宅地造成におきましては、順調に売上戸数が増えているとも聞きますので、決して舟橋村への入居ニーズがないとは思っておりません。村当局の家賃及び今後の取り組みに対するお考えをご説明願います。

本日の質問については、1つ目と2つ目で内容に若干齟齬のある点もありまして、質問しづらい面もございましたが、何とぞ村長及び村当局の真摯なご回答をよろしくお願いいたします。

○議長（森 弘秋君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 4 番杉田議員さんのご質問にお答えを申し上げます。

私が平成17年1月12日に村長に就任して以来、間もなく15年2カ月が経過いたします。この間、日本一面積が小さな自治体として、行財政のバランスを大切にしながら、持続可能なまちづくりに向けまして、村民の皆さんとともに、舟橋村に住んでよかったとだけ思っていた村づくりを進めてまいりました。

これまでを振り返ってみますと、まず、平成26年11月に、まち・ひと・しごと創生法の公布とともに、国の総合戦略が制定されたことを受けまして、本村では翌年（平成27年）の10月に地方版総合戦略及び人口ビジョンを策定いたしました。

ご承知のとおり、舟橋村は平成元年以降の宅地開発によりまして人口が倍増したのですが、このような短期間での急激な人口増は、コミュニティの希薄化や断片化とともに核家族化の起因となりまして、地域や家庭内での対応力、すなわち自助や共助の低下をもたらしたのであります。

また、20歳代では、大学への進学や結婚を機に転出される方が非常に多く、子どもを生み育てる世代が少ないことに加えまして、造成地に転入された方々が高齢化することにより、10年から20年後には急激な高齢化が進むなど、将来の人口構造に大きな課題があることが判明したのであります。当時行った村独自の推計からでは、このまま何もしなければ、40年後の2060年には人口が現在の3分の2、いわゆる2,000人にまで減少するとともに、急激な少子高齢化に伴い税収の激減や社会保障費の急増

等、諸般の影響は免れないとの分析結果が出ております。

さらに、村内には核家族の方が75%おいでになりますが、アンケートやヒアリングの結果から、このような方々は、特に子どもさんの未就学期間には、日中、子どもとお母さんが家の中で閉じこもってしまい、孤独感や閉塞感に襲われがちである実情が把握できたのであります。

これらのデータをもとにいたしまして、人と人々が緩やかに支え合うことにより、子育てに困ったとき、悩んだときに助け合える仲間がいることや、ひとりじゃないと思える安心感を体感しながら子育てができる環境づくりの施策を進めております。

また、一方では、人口減少や少子高齢化は自治体だけの課題ではなく、企業にとっても消費者の減少やシェアの縮小等が見込まれることから、産学官金がアイデアを出し合ってそれぞれの立場で取り組みを進めることが大変重要になってまいります。

以上のことから、現在舟橋村が挑戦しております地方創生「子育て共助のまちづくり」では、地域住民同士の支え合いのまちづくりの実現によって、出生率の向上、子育て世帯の転入を図ること、そしてこれを民間企業の新たな仕事として取り組むことを目標にしておるのであります。

その成果の一例を挙げますと、まず村営保育所を平成28年度に民営化した後に、平成31年4月には幼保連携型認定こども園としてオープンしたことであります。また、平成27年から、2歳児からの英会話教室を開始しているほか、病児・病後児保育も開園時から実施しまして、保護者はもとより、特に共働き世帯の方々から大変好評をいただいているところであります。

また、オレンジパークでは、小学生「こども公園部長」をはじめとした、地域住民を取り込んだ公園運営に挑戦しております。子どもたちが描いた設計図をもとに、クラウドファンディングで資金を集め、一人では遊べない水遊び場をつくったほか、遊びに来た人たちを運営に巻き込み、かかわっていただくことで公園や本村への愛着を生み出ししており、平成30年10月には、こうした取り組みが評価されまして、第34回都市公園等コンクールで最高賞の国土交通大臣賞を受賞いたしましたのであります。

次に、子育て支援センター「ぶらんこ」では、お母さん同士のつながり事業を展開しておりまして、初めての子育てや村外からの転入などの要因から不安感を持ち、孤独感を感じがちな子育て世帯の皆さんに、地域に見守られながら子育てをする安心感の中で楽しみながら子育てできる環境を提供しておるのであります。

事業を進める中では、お母さん同士で少しの時間子どもを預かるという「ちょこっとお預かり」や手づくり品を販売する「レンタルボックス」、小学生のたまり場をつくる「Jr.ぶらんこ」など、新しい企画もどんどん生まれてきているのであります。

このような取り組みを進めてまいりました結果、子育てしやすい村として舟橋村の認知度は向上し、メディアに取り上げていただく機会も増加しましたが、こうした環境の変化は、民間企業による宅地開発も誘発いたしまして、子育て世帯の転入にもつながっている所以であります。

本議会の提案理由でも説明を申し上げましたところでありますが、本村の総合戦略に掲げるKPI（数値目標）はほぼ達成し、一定の成果を上げているのではないかと自負しているところであります。

さて、議員ご質問の今後のことではありますが、この4年間の成果を一過性のものとせず、10年、20年後の未来につなげるためには、どのような事業に重点を置き、どのように遂行していくのか。本村にとりまして、今後5年間は選択と集中のあり方の真価が問われる非常に重要な時期になってくるものと思っております。

今後とも、村民、行政、民間企業等がお互いに支え合い、アイデアを出し合って、本村の未来への大きな夢と希望を感じる持続可能な村の実現に向けまして、村民の皆様のお力添えをいただきながら、再度、全身全霊をかけてチャレンジする所存であります。

引き続き議員各位のご理解とご協力をお願いいたしまして、私からの答弁とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君） 4番杉田議員のご質問にお答えいたします。

初めに、リラフォートふなはしの入居状況についてであります。

3月6日現在の入居契約件数は11件、申込検討中が4件ある状況であります。

昨年12月以降に問い合わせがあり、契約に至らなかった件数が7件ありました。その理由は、エアコンがついていないが2件、部屋が狭いが2件、家賃が高いが3件でありました。

続いて、昨年12月以降のPRについては、積和不動産、朝日不動産に加え、リラフォートふなはしの物件情報を取り扱う不動産事業者を20社追加いたしました。また、各不動産事業者の所定フォーマットによる案内に加え、村独自のチラシを作成し、店頭

においてPRしていただいております。

その後、2月中旬からは問い合わせも多くなっておりますので、引き続き入居者募集に努めてまいります。

次に、かねてから議員のご指摘があります家賃設定に当たっては、自治体が運営する賃貸住宅と比較しますと割高な料金設定であります。一方で民間が経営する近隣の同規模のアパートに比べますと、料金は低く設定されております。

議員もご存じのとおり、リラフォートふなはしは、本村が進める子育て環境づくりの中で一番すぐれた位置にあり、その価値観はモデルエリア内の施設や子育て支援アプリを通して、子育て世代のつながりによる安心感を醸成する極めて良好な環境下にあることもご理解いただきたいと思います。

また、3月時点での入居状況等を踏まえまして、収支バランスを検討した上で家賃の見直しを図りたいと考えておりますので、猶予期間をいただきますようお願い申し上げます。まして答弁といたします。

○議長（森 弘秋君） 杉田雅史君。

○4番（杉田雅史君） ただいまは、当局のご丁寧なご説明、また村長の再度のチャレンジ表明、今後ますます頑張っていただければと思います。

リラフォートふなはしについてですが、今ほど最後に、収支バランスを考慮し、今後家賃の見直しもあり得る的なお話でございました。

これは本当に村の方が、結局、新しい方がいらっしゃることに対して望むことでありますし、今入居しておられる方も含めたところでの総体的な家賃の値下がり等が行われるのであれば、これはこれで全然喜ばしいことだと思います。

ただ、野放しに値段を下げるんじゃなくて、そこは家賃設定を考える際に、言われたとおり収支バランスを考慮された上、本当に最低限、一番安い設定となるよう期待し、私からのご質問を終わらせていただきます。